



Title	米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 軍用地問題 (収用、賃貸、解除保証) 3(マケルロイ国務省日本部沖縄担当官内話 外務省外交史料館レファレンス番号: H220211)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(1)No.1 公開日: 平成22年7月7日 外務省外交史料館管理番号: A'3.0.0.7-1(117) CD・DVD番号: H22-001
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43640
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

マゲロイ 国務省 日本部 沖繩担当官 皮話

カヒ 万大 博假

大政事外外儀官
務務 典男
次次
臣官官審審長長
衛總人電厚計
價費 文会管給

編撰企
参撰旅移

中東
北東
西
北
保
一
二
西
東
洋
西
東

参審近ア
次総経国万
参賛統国
参政技二
国一理
参条協規
参政経科
参社専
参道内外
一
二

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号 (TA) 37586 主管
70年 月 30日 19時 32分 米 日 発着
70年 7月 31日 09時 21分 本 省 米北

外務大臣殿 下田 (大機) 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワの米軍基地 (内話)

第2248号 極秘

29日、国務省日本部オキナワ担当のマケルロイがキウチに述べるどころ次のとおり。

1. オキナワ返かんに伴ない、同地にある米軍基地の若干を整理、しゆく少すべしとの意見が日本側内部にあるやに承知しているが、それは、極めて困難である。

リーザ一陸軍長官の議会証言ではないが、米国の極東戦略は今後ますますオキナワを基点にして考えられることとなるべく、むしろそこに集中するすう勢にある。すなわち、韓国、日本本土、台湾、フィリピン更にはインドシナから引あげて、そのいきおいで一挙に米本土に引きあげてしまおうというのではなく、一たんはオキナワに集中しようとするのが順当な常識であり、今後数年間のすう勢である。

したがって、オキナワ基地が現在より強化されることはないとしても、しゆく少されるようなことは到てい考えら

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

れない。指き系列の再編によつてオキナワが週へん地域の上位に立つこととなろう。

2. 現実の問題として、上述の事態を前提にしつつ、自衛隊に基地の一部を割あいするのであるから、代替地を求めたくなることはあつてもしゆく少は考えられない。カテナと兵たん施設と海兵隊がはしらとなつているが、カテナ関係の家族のしゆく少等々の施設が数千人分不足している状況であり、週へん地域の米軍が若干なりともオキナワに集つたらなおさら施設の不足をきたす。セカンド・ロック等を整理しゆく少することもインドシナ戦さうの現在の現状にかんがみ当分不可能であり、またやすあがりの海兵隊こそ最後まで残留させられる部隊である。

他方、昨年のオキナワ交渉の際も国務省としては議会及び軍部に対して核ぬき本土なみであつても、基地の機能はそこなわれないことを前提に説得してきた経緯もあり、せん維交渉ではないが、日本側がどんどん強い要求を出されたのでは国務省としても(落日にあるだけ)ますますし事がやりにくくなる。はなはだそつ直に言わせてもらつたが、日本側がオキナワ基地のしゆく少整理に期待をかけられたら必ず将来失望されることとなるほかないと思う。

(当方より、基地のしゆく少整理は一般的傾向であり、これが上述のようにオキナワにしわよせされる結果となつ

極秘

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

ているため。われわれの期待どおりには運ばれない訳だが、日本におけるはく然たる期待には無理からぬものもある旨述べるとともに、いずれにしても日米それぞれの思わくが仮に異つた方向にはしつたのでは後日不都合となるので、本件も早目にハイレベルでとりあげたらよいのではないかと「マ」に示さしたところ。先方は、未だスナイダー公使あたりの段階で、しかも打しんの域を出ていないのでマイヤー大使から外務大臣へ、すぐ持つてゆくという訳には行くかどうか分からないが、留意しておこうと述べた趣。

13)

2 -